

中学生の英語を読む量を増やす工夫

—Narrow Reading の理論を生かした読み物教材の開発—

長期研修員 神山豊彦

Kamiyama Toyohiko

要 旨

中学校学習指導要領における英語の目標の一つは、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにすることである。中学生がこうした英語を読む力を高めるための読み物教材が身近にあれば、教員は中学生に多読を行わせ、英語を読む力を高めることができる。本研究では、中学生が自ら読み進めて英語を読む力を高めることができるように、Narrow Reading の理論を生かした読み物教材の開発を行った。

キーワード： 多読、Narrow Reading、スキーマ、読み物教材

1 はじめに

『中学校学習指導要領』では、英語の目標の一つに、「英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする」ことが挙げられている。この目標を達成するには、中学生に、理解できる語彙や文法、内容が扱われている英文を多く与え、英文の大まかな流れや大切な部分を読み取らせることが必要である。

しかし、著者自身の授業を振り返ると、中学生の英語力には差があるため、英語を理解させるには、教科書で扱う英文を構成する語彙や文法を説明した上で、それらの英文の構成を説明することが大切であると考え、授業では、教科書の英文の中から重要文を取り上げ、その英文の構成とその意味を理解させることに多くの時間を充ててきた。また、周りの教員の授業を観察したり、口頭で調査したりしたところ、授業の進め方において著者と大きな差異のない教員も多かった。

こういった現状では、教員は中学生に自ら英語を読む機会を十分に与えることができず、上記の目標の達成は困難と考えられる。

2 研究目的

中学校での英語の授業の多くは、文法訳読を中心に行われ、文法を教えたり、英語を日本語に訳させたりすることに時間が割かれている (O'Donnell, 2005)。そのことから、中学生は、英語を日本語に訳すことで英語が理解できたという安心感を覚え、教員は、中学生が英語を日本語に訳すことができれば、英語を理解できていると考えることが多いと推測できる。その結果、中学生は、一文一文の意味を理解することを重視して、全体の意味を把握することを^{おろそ}かにしてしまう。このような状況では、中学生が英語を楽しく読み進め、英文の大まかな流れや大切な部分を読み取ることができるようになることは難しい。

また、教員が、中学生に教科書以外の英文を読ませたいと考えても、中学生が読んで理解できる適切なレベルの英語で書かれた読み物教材が、学校に備えられていなかったり、備えられていても、すべての中学生が読むことのできるだけの十分な数がなかったりする場合はほとんどである。さらに、教員が自ら読み物教材を作成しようと考えても、様々な業務に追われて作成する余裕がない場合も多い。

本来、中学生に多くの英文を読ませるためには、中学生が自ら英文を読む時間をもつことのできるような授業展開を教員が行うことや、授業時間外に教科書や教科書以外の読み物教材を読ませる方法を考えていくことなどが必要である。それゆえ、中学生が、教員の支援なしで自ら読み進めることのできる読み物教材があれば、中学生の英語を読む力は更に高まると考えられる。

本研究では、自ら英語を読んで書き手の意向などを理解できる適切な読み物教材とはどのようなものであるかを、中学校英語教育の現状と先行研究を基に考察し、本県の中学生を対象とした読み物教材の開発を行った。

3 先行研究の調査

(1) 多読の効果

全体の意味を把握しながら、学習者にとって比較的易しい多くの英語を読む読み方を多読と言う（高瀬、2010）。多読は、学習者の語彙と背景知識を増加させ、読むスピードと読解力、そして構文理解を向上させ、英語を読むことに対する自信と動機を高める効果があるとされている（Grabe、1991）。英語を読む力は、英語を読むことによつてのみ高まるのであり（Powell、2005；Smith、2006；高瀬、2010）、多くの英語を読ませることが、学習者の英語の読解力の向上につながる。それゆえ、中学生の英語を読む力を高めるためには、中学生に英語を多く読ませることが重要である。

(2) スキーマの活用

学習者のもっている背景知識をスキーマと言う。このスキーマを活用して英語を読み進められない場合、学習者にとって、その英語を読んで書かれている内容を理解することは容易ではない。学習者は、自分のもっている背景知識と書かれていることをすり合わせることで、その内容を理解していく。長谷（2010）によると、読むことは、読み手が自分のスキーマを文章の内容と照合して、その意味を捉えるプロセスとされている。

このことを考えると、中学生対象の読み物教材は、中学生が自分の力で内容を理解することができ、楽しく読み進めることのできるものが適切であろう。それゆえ、扱う内容は、中学生がスキーマを活用することのできる厳選されたものである必要がある。

(3) 使用文法

中学生を対象とした、英語を読む力を高めるための読み物教材については、既習の文法事項を用いて作成することが望ましい。

第二言語習得に関する仮説の一つに、インプット仮説がある。インプット仮説は、言語学者の S. Krashen が、1970年代から1980年代に提唱したもので、言語習得は、聞くことや読むことといったインプットから始まるという考え方である。学習者は、インプットを浴び、言語の仕組みを頭の中に蓄える沈黙期を経て、発話ができるようになる。すなわち、学習者は、インプットにより、第二言語に対する理解力（意味の認識）と産出力（形式の生成）を向上させるのである。

インプット仮説では、学習者は自分の言語能力（i）のレベルを少し超えた（プラス1）イン

プットを浴びることによってのみ、言語習得が行われるとされている (Krashen, 1985)。学習者は、コンテキストと学習者がもっている知識の助けを借りながら、プラス1のインプットを理解することができるのである。このインプット仮説の $i + 1$ に基づいて、読み物教材に既習の文法事項が重なったもの、例えば、現在完了形と受け身を取り入れて作成することも考えられる。

(4) 使用語彙

中学生が、教員の手助けなしで能動的に読み進める読み物教材に、未習語彙が多く使用されていれば、中学生は英文を読む途中で辞書を用いなければならない。その結果、何度も英文を読むことを中断しなければならなくなり、英文をテンポよく読み進めることができない。加えて、辞書で語彙の意味を調べることによって、一つ一つの単語や英文の意味にとらわれがちになり、英文の大まかな流れや大切な部分を読み取る読み方ができなくなってしまう可能性がある。中学生に負担を感じさせずに英語を読ませる読み物教材には、既習の語彙を用いることが望ましい。

Schmitt, Jiang, Grabe (2011) は、学習者はその英文を構成しているすべての語彙のうち、98%の語彙を知っていれば英文を読むのに支障がないと報告している。すなわち、学習者は未習語彙が読み物教材で使用されている語彙の2%以内であれば、コンテキストとスキーマ (i) を基に、2%以内の未習語彙の意味 (プラス1) を推知すると考えられる。

中学生対象の読み物教材では、中学生の既習語彙は限られているため、未習語彙の割合が、その英文で用いられている語彙全体の2%を上回る場合もある。その際には、2%を上回る未習語彙に側注を付ける必要がある。古家 (1997) は、側注数と内容理解には相関関係はないとしている。

(5) 読み物教材

Day & Bamford (2006) は、第二言語学習者対象の読み物教材は、学習者の第二言語能力が限られていることと、学習者が目標言語の文化における常識的な知識をもっていないことを念頭に置いて書かれなければならないと述べている。しかし、多くの市販の読み物教材は、古典作品、映画を書き直したもの、そしてオリジナル作品で、英語圏で使用されている語彙で書かれている (高瀬, 2010)。それゆえ、扱われている内容は、日本の中学生にとって馴染みのないものが多く、使用されている語彙も、日本の中学生の英語レベルを念頭に置いていない。そのため、これらの読み物教材では、日本の中学生に馴染みのない内容や日本の教科書で使用されていない語彙が扱われている場合が多く、教員が、中学生の知っている内容であり、かつ既習語彙で書かれた読み物教材を探すことは容易ではない。

(6) リーディング・タスクの活用

リーディング・タスクは、学習者のリーディングに対する動機を高める働きがあるとされている (及川, 1995 ; 村尾, 2010)。中学生は、読み物教材を読んだ後、リーディング・タスクを行うことによって、内容が理解できているかどうかを自分で確認することができる。

リーディング・タスクには、プレリーディング・タスク、ホワイリーディング・タスク、ポストリーディング・タスクがある (長谷, 2010 ; 泉, 2010 ; 野呂, 2010 ; 氏木, 2010)。これらの3つのリーディング・タスクをまとめたものが表1である。

プレリーディング・タスクは、読み物教材に中学生がスキーマを活用できるテーマが扱われ、中学生がそのテーマについて学習した後では、それほど効果的ではないと考えられる。また、ホワイリーディング・タスクは、リーディング活動の流れを妨げる可能性があるため、まとまった英語を読み、その全体の意味を把握させることを目的としている読み物教材のリーディング・タ

表1 3つのリーディング・タスク

種 類	内 容
プレリーディング・タスク	リーディング活動前に、語彙や文法についての情報を与えたり、内容について興味をもたせて、スキーマを活性化させること
ホワイルリーディング・タスク	リーディング活動中に、図やグラフを用いてまとめたり、内容を要約したりすること
ポストリーディング・タスク	リーディング活動後に、語彙や文法を更に定着・内在化させたり、読んだ内容を振り返り、自分の予測通りであったかを確認させること

スクとしては適していない。一方、ポストリーディング・タスクは、リーディング活動を途中で妨げず、リーディング活動後に学習者が自ら内容を理解できたかどうかを確認することができるものであり、中学生が自ら読み進める読み物教材に適したものである。ポストリーディング・タスクは、理解した内容を再検討することができるため、3つのリーディング・タスクの中で最も重要なものと考えられている（八木、伊藤、波多野、2001）。

このポストリーディング・タスクについては、様々なタスクが報告されており（氏木、2010；村尾、2010；泉、2010；藤田、2010；塩澤、1994）、それらをまとめたものが表2である。

表2 ポストリーディング・タスク

タ ス ク	内 容
主題作成	本文の内容に合う主題を書く
要約作成	本文の内容についての要約を書く
感想文作成	本文の内容についての感想文を書く
正誤問題	本文の内容に合っているかどうかを○×で答える
多肢選択問題	本文の内容に合っているものを選択する
Q&A	本文の内容についての質問に答える
単語・英文抜粋	本文でのキーワードもしくはキーセンテンスを見つけ出す
並び替え	物事が起きた順や年代順、論理的に筋が通るように並び替える
read and match	本文を読んで、絵や文やタイトルなどとマッチさせる
read and correct	絵と矛盾する箇所を見つけて、文を修正させる
role-play	2、3人のグループでロールプレイを実演させて、状況を言い当てるクイズを行う
read and label	本文の内容を図式化したものに、キーワードを当てはめていく
read and complete	本文を読んで、チャートを完成させる
read and draw	文章の中で描写的な部分を絵に描かせる
jigsaw reading	1つの文章をいくつかの段落に分けて、グループのメンバーにそれぞれ読ませ、各々読んだ内容を他のメンバーに報告する
two-in-one stories	異なる2つの話を混ぜ合わせたものを読んで、元の話になるように、それぞれを並べ替える
cloze test	本文をパラフレイズした文章の（ ）に、本文の内容に合うように適語を入れる

今回作成した読み物教材は、中学生が自ら読み進めるものであるため、そのポストリーディング・タスクはペアやグループで行うものではなく、一人で行うことのできるものが適切である。また、この読み物教材の作成目的は、『中学校学習指導要領』における英語の目標である「英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする」ことであるので、ポストリーディング・タスクは、英文の流れや大切な部分を正確に理解できたかどうかを問うものである必要がある。さらに、中学生が答えることに負担を感じるポストリーディング・タスクでは、中学生の英文を読む

意欲を失わせる可能性も考えられる。それゆえ、ポストリーディング・タスクは、文章を作ったり、絵を描いたりするといった、比較的負担が少ないものであることも重要である。これらを踏まえると、正誤問題、多肢選択問題、Q&A、単語・英文抜粋、read and complete の5つのタスクは、これらの条件に当てはまると考えられる。

4 Narrow Reading

Narrow Reading とは、学習者が背景知識としてもっている特定のテーマを扱ったものや同じ作家の書いたものを連続して読み進める方法である (Krashen, 2004)。読み物教材に、学習者がもっている背景知識がテーマとして扱われていれば、学習者はスキーマを活用して、その内容を理解し、読み進めることが容易となる。インプット仮説では、学習者は、コンテキストと学習者のもっている知識 (i) を基に、プラス1の内容を理解することができるとされている。学習者は、テーマに関する知識 (i) を基に、テーマについて書かれた読み物教材の内容 (プラス1) を理解していくと考えられる。また、読み物教材が特定のテーマについて書かれていれば、同じ語彙が繰り返し使用されることが多く、学習者は語彙を容易に習得することができる。さらに、同じ作家が書いた読み物教材では、使用されている表現や文体が似ているため、学習者は表現や文体に慣れることで、フラストレーションを強く感じることなく、英語を読むことができる。

これらのことから、語彙や文法、そしてスキーマが限られている中学生のための読み物教材は、Narrow Reading の理論を生かしたものが適していると考えられる。

5 教材構成

(1) テーマと内容

中学生がスキーマを活用して読むことのできる読み物教材を作成するために、奈良県公立中学校で使用されている、NEW HORIZON English Course 1 2 3、SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 2 3、NEW CROWN ENGLISH SERIES 1 2 3、TOTAL ENGLISH NEW EDITION 1 2 3 の4つの英語教科書を収集し、それぞれの教科書で扱われているテーマについて調査を行った。その結果を踏まえ、そこで共通に扱われている7つのテーマから35の内容を設定した (表3)。

表3 テーマと内容

テーマ	内 容
学校	世界の学校 日本とアメリカの学校 日本の中学生の放課後の過ごし方
食文化	世界の食事作法 ファーストフードとスローフード 郷土料理 各国の食事 和食
ボランティア	高齢者支援 障害者支援 途上国への支援 こどもエコクラブ フォスターペアレント ドングリ銀行
世界平和	核兵器 難民 国連
人権	人種差別 世界人権宣言と児童の権利に関する条約
世界の国々・異文化	アメリカ イギリス オーストラリア 南アフリカ ブラジル トルコ 韓国 中国
環境問題	ゴミ問題 地球温暖化 オゾン層破壊 食糧問題 森林消滅 人口爆発 生物種の絶滅 エネルギー問題

(2) 文法

既習の文法事項を使用することとし、既習の文法事項が重なって未習の文構造になったもので

も、インプット仮説より、中学生は既習の知識を活用して理解できると考え、扱う内容に応じて採用した。

(3) 語彙

中学生の既習の語彙を教材に使用することを目標に、先述した奈良県公立中学校で使用されている4つの英語教科書で扱われている語彙について調査し、そこで共通に扱われている語彙を使用した。また、それらの語彙に加えて、『「大学英語教育学会基本語リスト」に基づく JACET8000 英単語』から、大学英語教育学会が、中学校の基礎として英語学習の初期に身に付けるべき語彙と定めるレベル1の語彙も使用し、これら2つの語彙を合わせた割合は、英文全体の90%以上となるようにした。未習語彙には、その割合がその英文全体の2%を上回らないように、側注を付けた。また、既習語であっても、教科書によって表記が異なる場合(例: ... too./..., too.)は、より多くの中学生が教科書で学習する表記を用いるとともに、説明の側注を付けた。

(4) リーディング・タスク

中学生が読み物教材を読んだ後、内容が理解できているかどうかを自分で確認することができるように、リーディング・タスクを設定した。リーディング・タスクは、表2のポストリーディング・タスクの中から正誤問題、多肢選択問題、Q&A、単語・英文抜粋、read and complete の5つを採用した。

(5) 読みやすさ

本研究の読み物教材では、その教材の読みやすさを計測するために、1単語当たりの平均音節数や1文当たりの平均単語数を基準に計算する Microsoft Word 2013 の Flesch-Kincaid 式学年レベルテストを用いた。表3で示したそれぞれの内容について、中学生の英語のレベルに対応するため、2種類の教材を作成することとした。難易度の高い方が Level 1、低い方が Level 2 である。

6 おわりに

本研究では、奈良県の中学生対象の読み物教材を開発した(資料1参照)。本読み物教材では、すべての中学生が使用することができるように、奈良県公立中学校で使用されている4つの教科書で共通に扱われているテーマのみを扱った。そのため、本読み物教材は、絞られたテーマのみを扱うものとなっており、中学生がスキーマを活用して読むことのできるすべてのテーマを扱っているものとはなっていない。また、本読み物教材は家庭学習での使用を想定しているが、授業での使用も可能であると考えられる。

奈良県内の中学校の英語教員が、中学生の英語を読む力を高めるために、今回作成した読み物教材の中から、それぞれの中学生の学習状況に応じたテーマや語彙、文法を扱う読み物教材を選択し、使用することが望まれる。また、英語教員が自校の中学生向けに読み物教材を作成する際に参考となる「読み物教材作成基準」を資料2に示した。今後、県内中学校の英語教員が、この基準を活用して、それぞれの教科書や中学生に適した読み物教材を作成し、中学生に英語を多く読ませることを通して、英語を読む力を高めてくれることを期待している。

なお本研究では、諸々の制約もあり、作成した読み物教材を活用した学習効果の検証は行わなかった。今後の研究でその効果を検証し、より効果的な読み物教材の開発につなげたい。

引用・参考文献

- (1) 文部科学省 (2008) 『中学校学習指導要領』 p.105
- (2) O'Donnell, K (2005) "Japanese secondary English teachers: Negotiation of educational roles in the face of curricular reform" 'Language, Culture and Curriculum, 18(3)'
https://resources.oncourse.iu.edu/access/content/user/mikuleck/Filemanager_Public_Files/L700/Potential_Readings/O_Donnell%202006%20qual.pdf
- (3) Powell, S (2005) "Extensive reading and its role in Japanese high schools" 'The Reading Matrix, 5(2)'
<http://www.readingmatrix.com/articles/powell/article.pdf#search='EXTENSIVE+READING+AND+ITS+ROLE+IN+JAPANESE+HIGH+SCHOOLS'>
- (4) Smith, F (2006) 'Reading without Nonsense' Fourth edition. New York: Teachers College Press
- (5) 高瀬敦子 (2010) 『英語多読・多聴指導マニュアル』大修館書店
- (6) Grabe, W (1991) "Current developments in second language reading research" 'TESOL quarterly, 25(3)'
http://westmont.ccsct.com/uploaded/faculty/jmd/monthly_newsletters/VOL_25_3.pdf#page=6
- (7) 長谷尚弥 (2010) 「様々な事前リーディング指導」(門田修平・野呂忠司・氏木道人 編著) 『英語リーディング指導ハンドブック』大修館書店
- (8) Schmitt, N, Jiang, X & Grabe, W (2011) "The percentage of words known in a text and reading comprehension" 'The Modern Language Journal, 95(1)'
[http://www.norbertschmitt.co.uk/uploads/schmitt-n-jiang-x-and-grabe-w-\(2011\)-the-percentage-of-words-known-in-a-text-and-reading-comprehension-modern-language-journal-95-1-26-43.pdf](http://www.norbertschmitt.co.uk/uploads/schmitt-n-jiang-x-and-grabe-w-(2011)-the-percentage-of-words-known-in-a-text-and-reading-comprehension-modern-language-journal-95-1-26-43.pdf)
- (9) 古家貴雄 (1997) 「テキスト理解における学習者の英語脚注の利用方略分析について」『関東甲信越英語教育学会研究紀要 (11)』
http://ci.nii.ac.jp/els/110009590001.pdf?id=ART0010045270&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1418365904&cp=
- (10) Krashen, S (1985) 'The input hypothesis: Issues and implications' Longman
- (11) リチャード・R・デイ、ジュリアン・バンフォード (2006) (梶井幹生 監訳) 『多読で学ぶ英語ー楽しいリーディングへの招待』松柏社
- (12) 及川賢 (1995) 「リーディングの指導とは何か」(金谷憲 編著) 『英語リーディング論』桐原書店
- (13) 村尾玲美 (2010) 「タスクリーディングによるリーディング授業の活性化」(門田修平・野呂忠司・氏木道人 編著) 『英語リーディング指導ハンドブック』大修館書店
- (14) 泉恵美子 (2010) 「テキスト選択の指針」(門田修平・野呂忠司・氏木道人 編著) 『英語リーディング指導ハンドブック』大修館書店
- (15) 野呂忠司 (2010) 「教科書を用いたリーディング活動 (2)ーwhile-reading 活動ー」(門田修平・野呂忠司・氏木道人 編著) 『英語リーディング指導ハンドブック』大修館書店

- (16) 氏木道人 (2010) 「教科書を用いたリーディング活動 (3) -post-reading 活動-」 (門田修平・野呂忠司・氏木道人 編著) 『英語リーディング指導ハンドブック』大修館書店
- (17) 八木慶太郎、伊藤秀子、波多野和彦 (2001) 「タスク (設問) に着目した英語読解の指導法: 教科書分析における課題と考察」 『メディア教育研究、7』
- http://ci.nii.ac.jp/els/110007046113.pdf?id=ART0008974225&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1418361900&cp=
- (18) 藤田賢 (2010) 「読解力の評価: リーディングテスト」 (門田修平・野呂忠司・氏木道人 編著) 『英語リーディング指導ハンドブック』大修館書店
- (19) 塩澤利雄 (1994) 「多読指導を成功させるために」 『現代英語教育7月号』研究社
- (20) Krashen, S (2004) “The case for narrow reading” ‘Language Magazine, 3(5)’
- <http://www.psd1.org/cms/lib4/WA01001055/centricity/domain/34/admin/narrow.pdf>
- (21) 東京書籍株式会社 (2012) “NEW HORIZON English Course 1-3”
- (22) 開隆堂出版株式会社 (2012) “SUNSHINE ENGLISH COURSE 1-3”
- (23) 三省堂 (2012) “NEW CROWN ENGLISH SERIES 1, 2, 3”
- (24) 学校図書株式会社 (2012) “TOTAL ENGLISH NEW EDITION 1-3”
- (25) 相澤一美、石川慎一郎、村田年 (編) (2005) 『「大学英語教育学会基本語リスト」に基づく JACET8000 英単語』桐原書店